

ぼいす

北区飛鳥山博物館だより
2018.9.20

41

秋期企画展

西山英明作品展第2弾!
平成30年度秋期企画展

都電の記憶

—北区ゆかりの19系統・32系統を巡って—



昭和43年(1968)11月3日(日) 国史跡西ヶ原一里塚脇を走行する19系統通三丁目行3213号 西山英明氏撮影

主催 北区飛鳥山博物館

会期 平成30年10月27日(土) ~ 12月9日(日)
午前10時~午後5時

会場 特別展示室・ホワイエ 休館日 毎週月曜日

観覧
無料

都電の記憶

—北区ゆかりの19系統・32系統を巡って—

3年前の「都電残照'67」会期後に撮影者の西山英明氏から自宅で新たに見つかった都電を写した大量の35mm白黒ネガフィルムの再提供を受けました。36枚撮りで111本、約4000カットに及ぶその中には、思いがけなく展示で扱えなかった区内を走行する19系統（王子駅前・通三丁目）と32系統（荒川車庫前・早稲田）の写真が少なからず含まれていました。そこで、アンケートでも希望があった両系統に焦点を当てて再び企画展を開催します。

本展では原板から直接焼いた全紙パネル80点を展示する他、沿線を示した地図や両系統で使用された器具類などを添えて観覧に供します。撮影は全て昭和43年（1968）にされています。小笠原諸島返還・川端康成ノーベル文学賞・三億円事件などに象徴される年ですが、佐世保エンタープライズ寄港事件や新宿駅騒乱事件、米陸軍王子病院のデモで警官隊が4000人動員されたように世の中はベトナムの戦渦に巻き込まれていました。そうした最中、前年に公園が整備され石神井川の隧道も竣工した飛鳥山付近や王子駅前・西ヶ原などの界限で撮られた都電の写真が今回の主役です。

秋色深まる飛鳥山でちょうど50年前にタイムスリップしてみるのはいかがでしょうか。

企画展関連事業

◆ 学芸員によるフロアレクチャー ◆

日時：10月28日（日）・11月11日（日）
午後2時～3時
会場：特別展示室
内容：担当学芸員が展示の要点を解説します。
定員：30名
参加費：無料
申込：当日先着順
※午後1時より会場受付で整理券を配布します。

◆ <申込先> ◆

〒114-0002
北区王子1-1-3 北区飛鳥山博物館
TEL 03-3916-1133 月曜休館

◆ 映像企画「都電の記憶」 ◆

日時：12月9日（日）午後2時～4時
会場：講堂
内容：①「都電物語」（昭和40年東京都映画協会製作）
②「わが道をゆく—都電32系統—」（昭和45年東京都映画協会製作）
③「都電荒川線」（昭和58年東京都映画協会製作）
都立多摩図書館フィルムライブラリー蔵の上記3本の16mm記録映画を鑑賞するとともに司会（担当学芸員）との対談形式で講師から当時の撮影話を詳細に伺います。
講師：西山英明氏（元フリーカメラマン）
定員：80名※申込多数の場合は抽選します。
参加費：無料
申込：往復葉書で11月29日（木）必着、電子申請で11月28日（水）午後5時必着

Voice

数字からみた埋蔵文化財保護行政

一年間に約3,000件、あることに関する問い合わせの件数ですが、何についてのものだと思いますか？

北区には、遺跡地図に登録された埋蔵文化財包蔵地が50か所あります。その範囲内で、土木工事等を行う場合には、文化財保護法に基づき、事業者は届出をしなければなりません。最初に示した「約3,000件」は、これから建築工事や、不動産取引が行われようとする土地が、埋蔵文化財包蔵地に該当しているか否かを確認するための照会件数なのです。

そして実際に届出書が提出される件数は、一年間で100件以上、多い年には150件以上もの数に達します。

そのうち、埋蔵文化財の保護に影響を与えかねないような工事が計画されている場合には、住居跡などの

遺構の存否を確認するために試掘調査が実施されます。その件数は、一年間に30件前後を数えます。そこで遺構が残されていることが確認されたときにはじめて、記録保存（遺跡が失われてしまう前に記録として残すこと）をはかるための本発掘調査の実施へと移ります。その件数は、過去10年では、平均すれば一年間で8～9件になります。

講座や展示をとおして発掘調査による最新の成果を、皆様にも提供していくことに取り組んでおりますが、それらは年間で約3,000件の照会から始まり、最後に発掘調査にまでたどり着いたところから得られるものなのです。（牛山）

大地・水・人

貝輪素材が映し出す 縄文社会

安武 由利子 (当館学芸員)

遺跡を発掘調査するとさまざまなモノたちに出会う。古代人が身に着けていた装身具もその1つであるが、特に縄文時代の遺跡からは動物の骨や角・牙・歯、貝殻などを素材とした装身具が多く見つかる。縄文時代は狩猟採集社会で、日常生活に必要なものは自然から集める生活スタイルだった。骨角貝製の装身具は、その材料を自然つまりは日々の生業の中に求めたものであり、縄文社会を色濃く反映したモノたちなのである。

北区西ヶ原貝塚から見つかった骨角貝製品に、貝殻製の腕輪「貝輪」がある。貝殻の中央部分に穴をあけ丁寧に加工したもので、縄文人はその穴に腕を通して使用した。だが貝殻に開けられた穴は、実際に腕を通すには小さいとの印象を受けるものが多く、実用品とは俄かに信じがたい。

西ヶ原貝塚をはじめとし、各地より出土する貝輪の内周長は17cm台のものが多く、貝輪は、その出土状況から大人の女性が装着していたと考えられるものだが、よほど華奢な身体つきでなければ、この穴に腕を通すことはできない。貝輪とは、おそらく骨格が完成する前の若い頃に装着を開始し、外すことなく生涯つけ続けた類の装身具だったのだろう。

そうになると、気になってくるのが着け心地である。縄文時代の貝輪には、サルボウ・アカニシ・イタボガキ・サトウガイ・ベンケイガイ・オオツタノハ製などがある。貝輪は縄文時代早期より出土例があるが、時期によって主体をなす素材の貝種は異なる。新出素材で作られた貝輪はそれ以前の素材製のものと比べ、装着のしやすさが増す傾向にある。かつて講座内で試しに、素材の違いによる貝輪の人気投票をしたところ、後出素材であるベンケイガイ製貝輪に票が集中したことが思い出される。かくいう私もベンケイガイ製貝輪に票を投じた一人である。

ベンケイガイ製貝輪は縄文時代後期になって出土数が急増するのだが、大きさ・重さ・丈夫さ、はたまた手触りといった点で実にバランスが良い。ところが素材の入手のしやすさという点ではやや難がある製品でもある。生息地が限定的であるためだ。ベンケイガイは、外洋の水深が深い砂地に棲む二枚貝である。そのため、どうやら縄文人は生きた貝ではなく砂浜に打ち上げられた貝殻を加工し、貝輪としたようだ。さりとて外洋から離れた地に住む縄文人がわざわざ遠方まで赴き、素材を得て、これらを自身で製作したとは考えづらい。貝輪に加工済のものを、人づてで入手したのだろう。ベンケイガイ製貝輪の人気急騰の背景には、素材力の高さに魅力を感じるという、縄文人の実用主義的な考え方とともに、広範囲にわたる交流を可能とした縄文社会の成熟具合がうかがえるのである。



西ヶ原貝塚出土貝輪

イベント・レポート

モノ資料としての絵巻と展示キュレーション

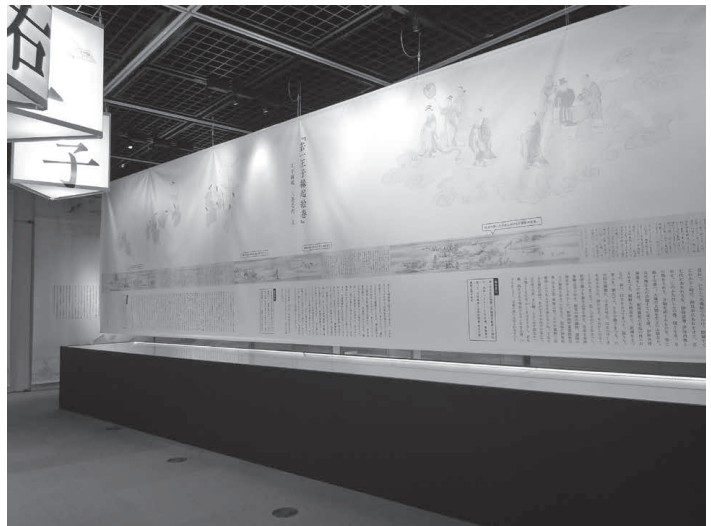
今、ここでしか体験できないことをやる、それが展示。

しかしモノ資料である絵巻は、資料特性から見て、イッキに画面を広げることは長期間の展示としては相応しくないとされ、また図録でも一度に見ることができる空間は限られている。時代劇ならともかく、免許皆伝とばかり巻物を道場や座敷いっぱい広げることは通常、行わない禁じ手である。でも、一堂に詞書や絵を通観したい欲望には抗いがたい。絵画テキストに潜在する政治過程が魅力的であるなら尚更である。

春期企画展「徳川家光と若一王子縁起絵巻」展（3/17～5/6）は、王子神社に関わる絵巻を横糸に、家光政権の宗教政策を縦糸にして、表層からは隠された宗教的世界観や権力の可視化を試みる展示であった。一般に絵巻の鑑賞形式は、肩幅程度に画面を広げ徐々にスクロールしながら絵画空間／時間秩序に従って視線を追うことを意味する。しかし本展では、温湿度ならび

に調光に留意した長大な展示ケースに、各巻を料紙の保存状態に配慮して列品し、その一方でタブスリー・パネル・映像・文献・地図資料を駆使して絵画の史的背景を探るなど、当館では初の17世紀初期の地域像を追及する展示となった。

「モノ」の持つ迫りに助けられ幸いこの展観は、会期を通じ19,074人もの方々のご観覧を得ることができた。（石倉）



民具講座を振り返って

なぜ、博物館では昔の古い道具が大切に保管・展示されているのか。そんな疑問について、自ら考え、答えを見つけてもらうため、平成30年3月24日に北区民具学講座「民具が教えてくれること」という講座を開催した。

この講座は、北区有形民俗文化財に指定されている旧下村岩井家生活用具を題材に、「岩井家はどのような暮らしをしていたのか」という問いの答えを、①資料をよく見る②資料について考える③考えたことを他者に話す④他者の話を聞くというプロセスを経ることで見つけてもらおうとしたものである。

講座の最中は、参加者の方々も積極的に発言している姿をたくさん見ることができた。アンケートのコメント欄には「みんなで答えを探ることが楽しかった。」「展示物をよく見ていなかったことに気付いた。」「1点の展示物がとても多くの物語・歴史を語ってくれていることに感激した。」といった声が見られ、この講座の意図を伝えることができたと感じている。

博物館の資料は自らが語らないだけで、その地域の歴史や文化に関する多くの情報を持っているものである。今回の講座を通して、参加者の方々が博物館にある資料の見方を理解し、他の博物館に行ってもそれぞれの展示から多くのことを読み取れるようになっていただければ幸いである。（工藤）

コレクション・レポート

モノの記憶・収蔵品が語る物語 小山酒造の爛鍋 かななべ

北区に住んでいるお酒好きならご存じの日本酒「丸真正宗」。製造元の小山酒造は、明治11年（1878）に小山新七が創業し、北区岩淵で酒造りを行ってきました。今回ご紹介するのは、小山酒造で長年使われてきた爛鍋です。注ぎ口までピタリとおおえる、木製のフタが付いています。寄贈を受けた際にうかがった話では、蔵人たちが皆で晩酌をする際に使用した鍋とのことでした。鍋の口径19cm、深さ10cm、1升まるまる入ります。

小山酒造では、以前は新潟県柏崎の越後杜氏が引き連れた蔵人たちによって酒造りが行われていました。蔵元3代目の長女である小山織さんは、蔵での酒造りや、それとともにある蔵元の暮らしを『酒蔵の四季』（東京書籍、1996年）に記しています。同書によると、小山酒造では秋から春にかけて、「ひろしき 広敷」と呼ばれる建物で「親方さん」（尊敬と親しみをこめた杜氏の呼び方）と「蔵人さん」たちが寝泊りしていました。

「かつては晩酌に、内部に錫メッキが施された銅製の爛鍋でお燗をした酒をご飯茶碗で飲んだということだが、今は親方さんも蔵人さんも節制をしている様子だ。

しかしもし、親方さんや蔵人さんたちと本気でつきあって飲みだしたら、相当に飲み慣れたひとでないかぎり、急性アルコール中毒で人事不省になりかねないだろう。」（同書32頁）

昼間は酒造りに精を出し、夜にはお酒を酌み交わす。酒を愛した蔵人さんたちの姿が浮かんでくるようです。（田中）



使いこまれた鍋とフタ

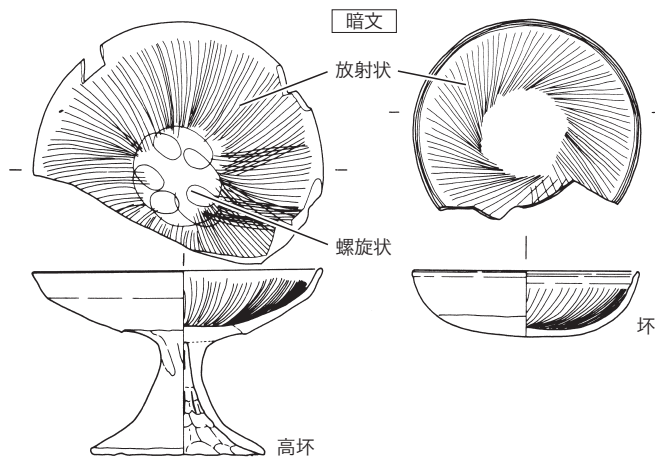
じっくり見てみて常設展示 土器内面にある不思議な文様

「律令社会と豊島郡衙」のコーナーには、北区有形文化財に指定されている御殿前遺跡特殊遺構出土土器が展示されています。西ヶ原二丁目一帯に所在する御殿前遺跡は、昭和58年に発掘調査で発見されてから、古代の地方役所である豊島郡衙跡として知られる著名な遺跡です。特殊遺構は直径3メートル、深さ2メートル弱の挿鉢状に掘り込まれた大穴で、内部から土師器がまとまって出土しました。その出土状況や土器の製作年代から、大穴は七世紀後半の郡衙創建時に行われた祭祀に関わる遺構と推定されています。

展示されている土師器には、畿内産土師器と呼ばれる器厚が薄く、精選した緻密な胎土を使用して製作された高坏と杯があります。土器の内面を良く見ると、幅1ミリメートルにも満たない細かい線が放射状に、高坏の真中には螺旋状に描かれています。これは篋状の工具で磨かれた「あんもん 暗文」と呼ばれる文様です。

六世紀に朝鮮半島から仏教が伝わり、仏の器として金属製食器がもたらされると、7世紀には畿内地方で金属製食器を模倣した土師器が製作されます。土器の外表面は丁寧に磨かれ、内面には「暗文」を放射状や螺旋状に施し、金属器の光沢や質感を再現しています。

この畿内産土師器は、宮都がある大和地方で製作され、中央官人を介して豊島郡衙に持ち込まれたと考えられています。（中島）



御殿前遺跡出土の畿内産土師器



学芸員の本棚

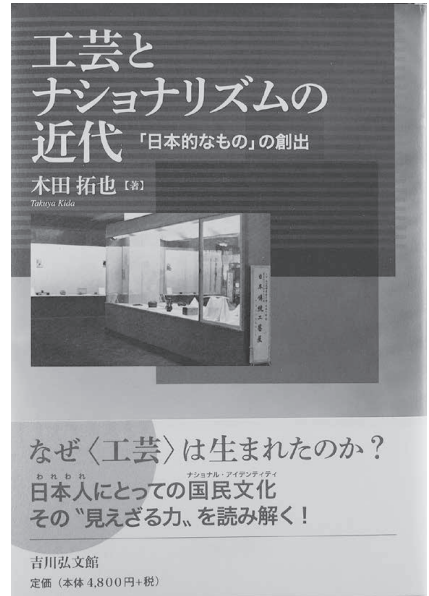
『工芸とナショナリズムの近代 「日本的なもの」の創出』

木田拓也著 吉川弘文館
平成26年(2014)8月刊行

数年前、近代の刺繍教育に関わる企画展を担当した際に手にした一冊。著者は「日本的なもの」として確立されてきた国民文化を「ナショナリズムの実体」と定義した上で、「工芸」が明治期に「美術」と「工業」の「中間的領域」として作られたジャンルであり、戦前・戦後にわたり時代が求める「日本的なもの」を創出していった背景と経緯を小気味よく解説する。

明治20年代、欧化主義への反動から日本文化を再評価する機運が高まり、帝国博物館の主導で「美術工芸」という分野が成立する。日本の工芸品は日本独自の「美術」として海外の博覧会に出品され好評を得るものの、西欧においては装飾美術品や工業製品として扱われた。以来、産業としての工芸(産業工芸)が優勢であったが、昭和29年、第一回日本伝統工芸展の開催を機に「伝統工芸」と名付けられた分野が登場する。著者は「伝統工芸」とは古くから継承されてきた技術に基づく現代の工芸であり、日本の生活文化(の記憶)に潜在する日本人の美意識や精神、つまり「日本的なもの」を表現するものと位置づけている。

日本各地で「手仕事」が姿を消しつつあり、生活文化が激変している今、日本の工芸はどこへ向かうのか。そして現代における「日本的なもの」とは何か。工芸を通して日本文化の遠近を考えさせてくれる本である。(久保埜)



心ふるえる展示

「ゴードン・マッタ=クラーク展」 (東京国立近代美術館)

6月19日～9月17日)



同展チラシ

1970年代にニューヨークを舞台に活動し、35歳で急逝したゴードン・マッタ=クラーク。建築から出発した彼は、ストリートカルチャー、フード、アートと多方面に活動の場を求め、現在も世界中にフォロワーを生み続けている。本展は欧米各地で開催された個展に続き、没後40年を記念する待望のアジア初の回顧展で、映像・彫刻・写真・素描など約200点の作品を中心に、作家の全貌を構成するものとなった。

展示の一例をあげるならば、取り壊し前の建築を素材にビルディング・カットを手法とする代表作「スプリッティング」は、日常からは不可視の新たな世界を発見するなど、今も新鮮な感動を覚える。また荒廃したニューヨークで作家みずから実践した食堂「フード」の経営など、キャリアとしてはおよそ10年たらずのアーティストが、都市再生に多角的に参画した試みを示し、鮮烈な印象を与えた。キュレーションも明晰かつ秀逸で、さまざまな構築物が置かれた展示空間も実に魅力的であり、ゴードン・マッタ=クラークの世界観を再現するものとなった。

多様性への不寛容さが其処彼処に露呈し、また格差が広がり閉塞感が社会を覆い尽くす現在、東京が抱える空き家の増加と荒廃化といった都市のプレゼンスに対して、アートのチカラを示す、すばらしい展観であった。(石倉)

写真に見る

あの日あのとき

旧古河庭園の林間学校

写真は、都立「旧古河庭園」の中で撮られたものです。撮影年は、「旧古河庭園」として開園する以前の昭和29年で、敷地内の「日本庭園」の池の周りに集まる小学生を撮影しています。

年間約28万人の来園者を迎える都立「旧古河庭園」は、大正8年に完成した古河邸の建物と庭園を受け継いだ、東京都の文化財庭園です。終戦後、進駐軍に接收されますが、昭和27年4月に接收解除となりました。1万坪近い旧古河邸の敷地は、区内でも得難い自然公園となることから、地元の自治会、婦人会等からなる「旧古河邸解放促進期成会」が組織され、公園解放の要求を行っていきます。昭和28年6月には「古河邸解放促進期成北区民大会」が開催され、都や大蔵省に都市公園として解放するよう陳情を行いました。東京都でも同様の申請を大蔵省に提出していたことから、昭和30年4月、大蔵省は東京都に対して公園として利用する使用貸借契約を締結しました。東京都は園内の改修、整備を行い、昭和31年4月30日に「旧古河

庭園」は開園しました。

どの学校なのかは不明ですが、写真からは林間学校の授業として、帽子をかぶった半そでの子供たちが、区内の緑豊かな庭園を楽しんでいる様子が見えます。国指定名勝となった現在の庭園とは、また違った「旧古河庭園」の歴史の1ページです。(山口)



旧古河庭園（日本庭園）の池を見ている子どもたち

博物館インフォメーション

人物往来

平成28年4月から館長に就任していた山本三雄が3月31日付で異動となり、後任に前教育振興部教育政策課長の野尻浩行が着任いたしました。今後ともよろしくお願いいたします。

常設展示観覧料の無料デー！

きたる10月6日（土）・7日（日）の「区民まつり」と、11月3日（土・祝）の「文化の日」は当館の常設展示観覧料が無料となります。皆様こそってお越しください。

ミュージアム展示ガイドアプリ「ポケット学芸員」のご紹介

「ポケット学芸員」は博物館・美術館の館内で、展示物などを解説してくれる無料アプリです。当館では、平成30年4月現在、約40件の展示資料について解説文や動画を公開しています。本アプリは、当館だけでなく全国の複数の博物館・美術館でもご利用いただけます。ぜひご利用ください。

これはカンタン！「ポケット学芸員」のダウンロード方法

iPhoneをお持ちの方は「App Store」、Android端末をお持ちの方は「Google play」から、「ポケット学芸員」と検索し、端末にアプリをダウンロードしてください。

- ・ご利用の際に発生する通信料は利用される方のご負担となりますので、ご了承ください。
- ・展示室内で動画や音声を視聴される際は、音量を小さめにするか、イヤホンをご使用ください。
- ・アプリに掲載されているデータ類は閲覧・視聴以外の目的で使用することはできません。

コ
チコチと
音はすれども
姿は見えず

学芸員リレーエッセイ

博物館
ゆるは歌留多

博物館にはさまざまな資料が収蔵庫に
 収められています。これらの大切な資料
 を守るために、悪い虫が侵入していないか、年に一度環境調査
 を行っています。どんな虫が資料に影響を及ぼすかという、
 あまり聞きなれないフルホンシバンムシという虫があげられま
 す。この虫はその名のとおりに、古い本の紙などを食べる害虫で
 す。体長数ミリの小さな虫ですが、とてもやっかいな虫です。
 シバンムシはいろいろな種類がいて、中には建材を食べるもの
 もいます。このシバンムシの名のムシは虫でわかりますが、シ
 バンとはどういう意味なのでしょう。ヨーロッパにいるシバン
 ムシは、雌雄の交信の際に頭を木に打ちつけて音を出すので
 す。それが時計の秒針の音に似ているのだそうです。でも、小
 さな体長なので音はすれども姿は見えない。そこでつけられた
 名がデス・ウォッチ・ビートル。死神が持つ死の秒読みの時計
 という意味です。そこで和名にするとときに死神=死の番人でシ
 バンムシと名付けられたのだとか。でも、いまだかつて不思議
 な音は聞いたことがありません。むしろ捕虫器にかかったこと
 で姿は確認できます。これではタイトルも変えなければいけま
 せんね。「コチコチと音はせずとも姿は見える」(鈴木)

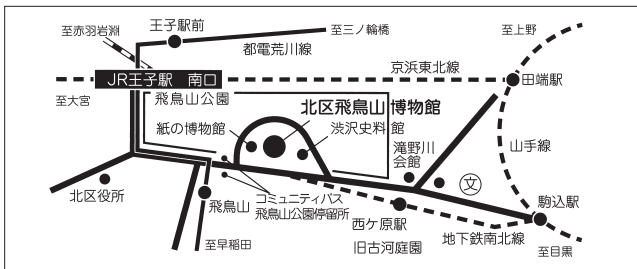
利用のご案内

【開館時間】午前10時から午後5時 ※観覧券の発行は午後4時30分まで
 【休館日】毎週月曜日(月曜日が国民の祝日・休日にあたる場合は開館し、
 直後の平日に振替休館)
 年末年始(12月28日～1月4日)
 ※このほかに臨時休館日があります。

【常設展観覧料】

- ・小学生未満は無料
- ・団体扱いは20名以上
- ・三館共通券は当館のほか、
 渋沢史料館、紙の博物館を
 ご覧になれます。

	個人	団体	三館共通券
一般	300円	240円	720円
高齢者 (65歳以上)	150円		
小・中・高	100円	80円	240円



交通のご案内

- ・JR京浜東北線 王子駅南口より徒歩5分
 - ・地下鉄南北線 西ヶ原駅より徒歩7分
 - ・都電荒川線 飛鳥山停留場より徒歩4分
 - ・都バス 草64、王40系統 飛鳥山停留所より徒歩5分
 - ・Kバス(北区コミュニティバス) 飛鳥山公園停留所より徒歩3分
- ※飛鳥山公園に隣接して有料駐車場がございます。

編集後記

今年関東地方では記録的に梅雨明けが早く猛暑に見舞われま
 したが、全国各地では激甚な豪雨被害がありました。自然の猛威
 を前に慄然とさせられた夏でした。しかし本号が皆様のお目に触
 れるころには、ややしのぎやすい季節となっているかと思いま
 す。秋から冬にかけての季節、当館ではいろいろな催しが目白押
 しです。さわやかな季節をむかえた飛鳥山へどうぞお運びになっ
 てください。(石倉)

平成30年度 下半期の催し物予定

秋

10月～12月

展示

- 特別展覧会「第17回奥山峰石と北区の工芸作家展」…(9/8～10/8)
- 関連講座 作家が語る！作品解説…(10/8)
- 秋期企画展「都電の記憶-北区ゆかりの19系統・32系統を巡って-」
 ……(10/27～12/9)
- 関連講座 学芸員によるフロアレクチャー…(10/28・11/11)
- 関連講座 映像企画「都電の記憶」…(12/9)

イベント

- 飛鳥山3つの博物館合同企画GO!-ゴー!ミュージアム2018
 勾玉ストラップをつくろう! ……(10/6・7)
- 文化財講演会 近代日本庭園のパイオニア7代目小川治兵衛(植
 治)-旧古河庭園の作庭をめぐって- ……(11/10)
- 文化財公開事業「稲付の餅焼き唄」の実演と体験…(12/8)

講座

- 北区の中世古道をたどる ……(10/13)
- 東京9区文化財古民家めぐり「旧松澤家住宅解説会」…(10/14)
- 飛行機と童謡の1919年 ……(10/20)
- ちびっこ体験講座「あすかやまのどんぐりで、おもちゃをつくら
 う! でんでんだいこ編」…(10/27)
- 北区民俗学講座 北区の民話…(10/27)
- 北区遺跡学講座2018 ……(11/3)
- 浮世絵・川柳で読み解く江戸文化・吉原二十四時・ありんす国に
 いらっしやい…(11/4)
- ちびっこ体験講座「あすかやまのどんぐりで、おもちゃをつくら
 う! マラカス編」…(11/10)
- 北区の近代建築を巡る…(11/16)
- 飛鳥山歴史探検隊…(12/1・2)
- 考古学講座中級編 考古学を学ぶ-顔料の話-…(12/16)
- 新聞から読む考古学-2018年下半年を振り返る-…(12/22)

冬

1月～3月

展示

- 来て、見て、さわって! 昔の道具…(1/8～2/28)
- 春期企画展「明治大正*東京名所そぞろ歩き」…(3/19～5/12)
- 〈回想のための〉テーマ展示「オボエテマスカ?-あの暮らし・こ
 の道具-」…(3/21～6/17)

イベント

- 飛鳥山3つの博物館合同企画「飛鳥山1日大学」…(2/16)

講座

- 北区ジュニア考古学クラブ「教科書でみたあの時代についてみよ
 う-古墳時代編-」…(1/27・2/3)
- 鑑賞のすゝめ…(2/9)
- 考古学講座 遺跡に行こう! 春…(3/2・3)
- 早春の旧中山道を歩き本郷へ向かう! …(3/17)
- 考古学と保存科学-考古資料が博物館に並ぶまでの軌跡をたどる-
 ……(3/21)
- 明治大正*東京名所そぞろ歩き-解説いたしませう-…(3/23)

※催し物は仮称のものも含まれます。()内の実施日は予定です。詳
 細は、当館発行の催し物案内、北区ニュース、ホームページをご
 覧ください。

北区飛鳥山博物館だより ぼいす41

【発行日】平成30年9月20日
 【編集・発行】北区飛鳥山博物館
 〒114-0002 東京都北区王子1-1-3
 TEL. 03-3916-1133
 【印刷】文明堂印刷株式会社